

研究ノート

## 『数学史研究』投稿用テンプレート (L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub>)\*

### 会誌に関する特別委員会†

#### 1. はじめに

このノートは、『数学史研究』に投稿する論文を L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> で作成する際のテンプレートである。

1. `\documentclass[twoside]{jjshm}` から `\begin{document}` の直前まで (プレアンブル) はそのまま原稿に利用する。パッケージを使うときは `%%% パッケージ %%%%%%%%%` 以下に書き込む。
2. `\begin{document}` から `\maketitle` までに当該論文の書誌事項を描く。
3. `\section{はじめに}` から参考文献の書き方までは削除し、投稿原稿 (ソースファイル) の本文を書く。
4. `\begin{thebibliography}{99}` から `\end{thebibliography}` までは、参考文献のテンプレートを上書きする。
5. `\newpage\pagestyle{headings}` 以下は、英文による書誌事項をテンプレートを上書きする。

原稿を作成するフォルダ (ディレクトリ) にクラスファイル `jjshm.cls`<sup>1</sup> をおく。 `jjshm.cls` は奥村晴彦氏作成の `jsarticle.cls` を、『数学史研究』の書式に合わせ京都大学数理解析研究所『講究録別冊』のクラスファイル `rims-bessatsu.cls` を参考にして、改変したものである。 `\author` など小文字のみのコマンドの使い方は通常の `jsarticle` あるいは `jarticle` クラスと同じである。

査読により採択が決まった原稿の執筆者は、ソースファイルをコンパイルして PDF ファイルを作成し、編集委員会に送付する。編集委員会は送付された PDF ファイルを確認した後印刷所に渡し、印刷所は PDF ファイルを JIS B5 に縮小したものを版下として印刷製本する。

---

\* 受理日：2021 年 7 月 26 日, 改定稿受理日：2021 年 10 月 30 日, 採択日：2021 年 11 月 5 日

† [osada@lab.twcu.ac.jp](mailto:osada@lab.twcu.ac.jp)

<sup>1</sup> Journal of the Japanese Society for the History of Mathematics の頭文字をとって命名した。

## 2. タイトルページ

本文に先立ち、投稿区分、題目、著者名を書く。

### 2.1. 投稿区分

投稿規定に、「論 説」「講 座」「ノート」「資 料」「談話室」「学界動向」「図 書」の区分がある。たとえば、論説の場合は`\Submit{論 説}`とする。コンパイルすると、`maketitle` コマンドにより、左上に 11.5 ポイントのボールド体で枠に囲まれて出力される。

### 2.2. 題目

タイトルページに表示する題目は`\title{ }`に書く。長い題目で 1 行に収まらないときは、`\\`で改行する。コンパイルすると、`\maketitle` コマンドにより、中央に 16.5 ポイントで表示される。

### 2.3. 著者名

タイトルページに表示する著者名は`\author{ }`に書く。所属および e-mail アドレスを`\author{藤原松三郎\thanks{東北大学, \texttt{fujiwara@tohoku-u.ac.jp}}` のようにつける。

## 3. ヘッダ

投稿時に、ヘッダに表示する 25 文字以内の題目を`\TitleHead{ }`、著者名を`\AuthorHead{ }`に記入する。さらに掲載が決まった後に、原稿執筆者が巻数、号数、年、ページ、開始ページを

```
\VolumeNo{1}  
\IssueNo{2}  
\YearNo{2022}  
\PagesNo{51-55}  
\setcounter{page}{51}
```

のように記入する。

コンパイルすると、タイトルページのヘッダには「数学史研究 III 期 1 巻 1 号 (2022), 51-55」のような書誌事項が記載される。偶数ページのヘッダには左端にページ番号、中央に著者名、奇数ページには右端にページ番号、中央に題目が記載される。

## 4. 本文

### 4.1. 注

注は脚注<sup>2</sup>を用い、コマンドは`\footnote{ }`である。

### 4.2. 数式、図、表

数式、図、表は LaTeX のコマンドを用いる。

## 5. 英語による情報発信

英語による情報発信は下記をコピーし、巻号、出版年、ページと日本語の部分を適切に置き換える。

```
\newpage
\noindent
{\itshape Journal of the Japanese Society for the History of Mathematics}\
Series III, Vol.1\ No.1 (2022),\ 1-31\

\begin{center}
  {\Large
    ここに英文タイトルを書く
  }

  ここに著者名のローマ字表記を書く
\end{center}

\begin{abstract}

\noindent
ここに英文アブストラクトを書く
```

---

<sup>2</sup> 脚注は順に番号 1), 2), ... がつき、脚注をつけたページの下部に 9 ポイントで印字される。

```
\medskip
\noindent
\keywords{英文キーワードを, で並べる}
\end{abstract}
```

## 6. 参考文献

参考文献は、本文あるいは脚注で引用したものを著者の 50 音順あるいはアルファベット順に並べる。単行本は、著者、書名、発行所、発行年を記す。雑誌掲載論文は、著者、題名、雑誌名、巻号、出版年、ページを記す。原典は、著者、書名、掲載書名、影印が公開されている場合 URL を記す。著者名は常用漢字に置き換えたものでよい。

### 参考文献

- [1] 関孝和、角法并演段圖、東北大学デジタルコレクション、平山文庫、MA/387  
[https://www.i-repository.net/il/meta\\_pub/detail](https://www.i-repository.net/il/meta_pub/detail)
- [2] 建部賢弘、發微算法演段諺解、京都大学数学教室貴重書ライブラリ  
<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000167>
- [3] 日本学士院 (藤原松三郎)、明治前日本數學史第二卷、岩波書店、2008. [第 1 刷 1956]
- [4] 原亨吉、近世の数学、筑摩書房、ちくま学芸文庫、2013. [初出は、数学史、筑摩書房、1975]
- [5] 藤原松三郎、和算史ノ研究、東北數學雑誌、第一輯、第四十六卷 (1940)、123-134. [東洋数学史への招待、東北大学出版会、2007、所収]
- [6] 三上義夫、關孝和の業績と京坂の算家並に支那の算法との關係及び比較 (一)、東洋學報、第二十卷 (1932)、217-249. [三上義夫著作集、第 2 卷、日本評論社、2017、所収]  
東洋文庫 ERNEST <https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/>
- [7] D.T. Whiteside, Patterns of mathematical thought in the later seventeenth century, *Archive for history of exact sciences*, Vol.1, No.3 (1961), 179-378.

*Journal of the Japanese Society for the History of Mathematics*  
Series III, Vol.1 No.1 (2022), 1-31

Template for submission to the *Journal of the Japanese  
Society for the History of Mathematics*

Special Committee on the Journal

Abstract

This note is both a template for writing papers for *Journal of History of Mathematics, Japan* in L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> and a manual for writing papers for submission in L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub>.

**Key Words :** template, sample file, L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X